

読解リテラシーの育成を目指す国語科学習指導の在り方  
～言語活動の工夫を通して～

目 次

I	研究の概要	
1	研究主題	6－ 1
2	主題設定の理由	6－ 1
3	研究目的	6－ 1
4	研究仮説	6－ 1
5	研究の全体構想	6－ 2
6	研究経過	6－ 3
II	研究の実際	
1	研究についての基本的な考え方	6－ 3
	(1) PISA「読解リテラシー」とは何か	6－ 3
	(2) 「読解リテラシー」の育成がなぜ必要か	6－ 3
	(3) 「読解リテラシー」の育成の方向	6－ 4
	(4) 「読むこと」の「言語活動例」が求めているもの	6－ 4
	(5) 本研究で検証する言語活動	6－ 5
2	生徒の実態把握と考察	6－ 5
	(1) 意識調査の概要	6－ 5
	(2) 意識調査の結果と考察	6－ 5
	(3) 「読むこと」の実態調査から見えてきた課題	6－ 7
	(4) 実態調査をもとにした研究の方向	6－ 7
3	検証授業Ⅰ（リライト）	6－ 9
	(1) 単元名・単元の目標	6－ 9
	(2) 学習指導上の工夫	6－ 9
	(3) 検証授業Ⅰの展開	6－10
	(4) 検証授業Ⅰの成果と課題	6－12
4	検証授業Ⅱ（批評読み）	6－14
	(1) 単元名・単元の目標	6－14
	(2) 学習指導上の工夫	6－14
	(3) 検証授業Ⅱの展開	6－15
	(4) 検証授業Ⅱの成果と課題	6－17
III	研究のまとめ	6－20
1	成果	6－20
2	課題	6－20
	<参考文献>	6－20

# I 研究の概要

## 1 研究主題

読解リテラシーの育成を目指す国語科学習指導の在り方  
～言語活動の工夫を通して～

## 2 主題設定の理由

現代社会は国際化、情報化の進展にともない、めまぐるしい変化の中で解決すべき課題も複雑になってきている。このような社会を生きていくためには、変化への適応はもちろん、多様な情報を生かし、よりよいアイデアを発信することで問題を解決していく力が必要とされている。しかし、情報を受け取る私たちは、さまざまな事象の表層だけをとりえ、情報の本質が何であるかについて自ら多面的に思考したり、判断したりすることが十分とは言えない面がある。

そのような社会情勢の中、OECDは義務教育終了段階の生徒が、実生活のさまざまな場面で直面する課題に、知識や技能をどの程度活用できるかを調査した。日本では「読解リテラシー」の分野で記述式の問題に無回答率が高く、取り出した情報を解釈、熟考・評価し、活用する力に課題が残った。このような現状を踏まえ、今回の学習指導要領の改訂では、課題解決に必要な、思考力、判断力、表現力をはぐくむ観点から、言語に関する能力を高めるために、全教科にわたって言語活動の充実を図ることになった。高等学校国語科の学習指導要領においても、言語活動例が内容に組み込まれ、「読むこと」の指導を、自分の考えを持って話し合う、まとめる、批評する文を書くといった言語活動例を通して行うことが一層明確になった。読んだことを生かして自分の考えを表現する授業を展開することで、主体的に問題を解決し、効果的に社会に参加する「読解リテラシー」の育成を目指そうとしている。

研究実践校においても、読んだことを生かして自分の考えを表現することが苦手な生徒が多く、読解力の育成は大きな課題になっている。ここで言う「読解力」は、活字や資料を目的に応じて読み、自分の言葉で表現する力であり、OECDの「読解リテラシー」が目指す力と共通している。「読解力」はすべての教科で身に付けさせるべき力であるが、国語科で「読むこと」の指導を行う際、生徒は受け身になりやすい。私自身、知識を定着させようとする意識が先行し、生徒に積極的に意見を求めたり、自分の考えを表現したりする場の設定が十分ではない現状がある。これからの国語科の授業では、生徒が主体的に読み、読んだことを生かす授業が展開されるべきである。そのためには、単に読むのではなく、表現の工夫や効果について価値判断を行うような読みや、読み取ったことを生かす場の設定が必要だと考える。

以上のように本研究では、目的に応じて主体的に読み、自分の考えを表現することができる「読解リテラシー」の育成を目指す。そのためには、「読むこと」と「書くこと」を関連させ、文章と積極的にかかわるような言語活動の工夫を行うことが必要だと考え、本主題を設定した。

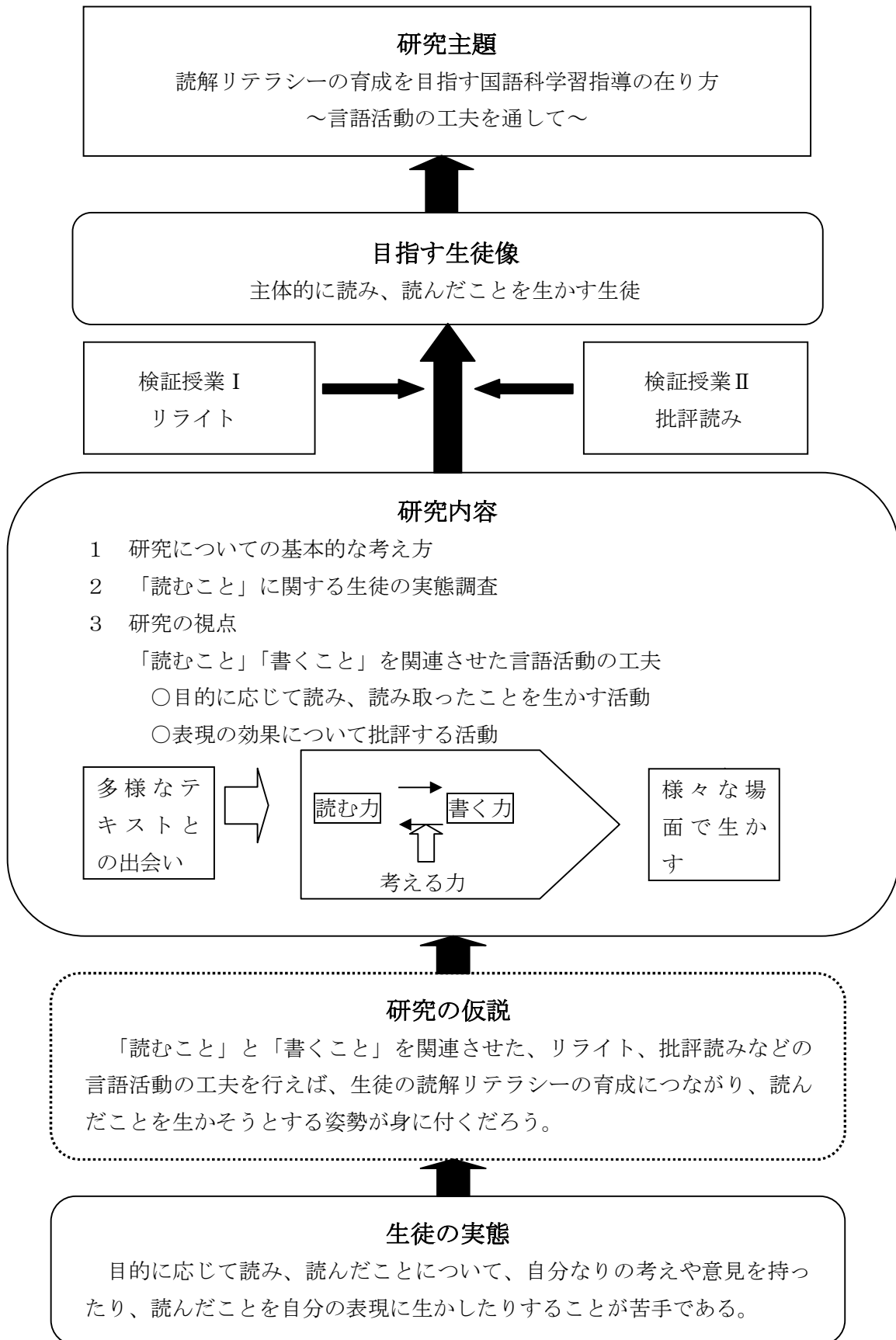
## 3 研究目標

主体的に読み、読んだことを生かす「読解リテラシー」の育成のために、「読むこと」と「書くこと」を関連させた言語活動の工夫を通じて、国語科学習指導の在り方を探る。

## 4 研究仮説

「読むこと」と「書くこと」を関連させた、リライト、批評読みなどの言語活動の工夫を行えば、生徒の読解リテラシーの育成につながり、読んだことを生かそうとする姿勢が身に付くだろう。

## 5 研究の全体構想



## 6 研究経過

月	研究内容	研究方法
4～5	新学習指導要領、読解リテラシーの研究 研究主題、副題の設定 研究計画の立案・研究概要の決定 実態調査内容の検討	理論研究
6	到達目標の明確化 指導方法の工夫（リライト） 第1回検証授業の指導案作成・実態調査用紙作成 事前準備、研究実践校との打ち合わせ	理論研究
7	実態調査1の実施（7/6）、調査結果の分析 第1回検証授業（7/17～7/22） 事後研究 検証授業の分析・考察	調査研究 実践研究
8	指導方法の工夫（批評読み） 研究の中間まとめ	理論研究
9	第2回検証授業の指導案作成 担当指導主事との協議 事前準備、研究実践校との打ち合わせ	理論研究
10	第2回検証授業（10/20～10/23） 事後研究 検証授業の分析・考察	実践研究
11	研究のまとめ	理論研究
12	研究報告書の作成	理論研究
1～2	研究発表の準備	理論研究
3	研究発表	理論研究

## II 研究の実際

### 1 研究についての基本的な考え方

#### (1) PISA「読解リテラシー」とは何か

PISAの「読解リテラシー」は、「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」（国立教育政策研究所）である。読む行為のプロセスとして「情報の取り出し」、「テキストの解釈」、「熟考・評価」の3つの側面がある。「読解リテラシー」は、攻める読み、アクティブな読みとも言われるように、目的意識を持って主体的に読むことや、読んだことに対する自分の意見や考えを表現することを重視した読解の力である。

#### (2) 「読解リテラシー」の育成がなぜ必要か

国語科における読むことの指導は「何が書かれているか」という解釈中心であることも多く、大学入試センター試験も選択式の情報の取り出しが主である。しかし生きていく上で必要な力は、情報を的確に読み取り、正しさを吟味し、自分の考えを論理的に表現する力であろう。これからの国語科の授業は、テキストの表現の工夫や効果を評価しながら読み、自分の考えを表現する活動を、教師が意図的に仕組む必要がある。「読解リテラシー」の育成を意識して授業を構想することは、知識を押しつける授業や、生徒が考えを表現することが少ない授業を改善することになり、自分の考えを表現できる生徒の育成につながると考える。

(3) 「読解リテラシー」の育成の方向

PISA2003年調査の結果を受けて、文部科学省は、「読解力向上に関する指導資料—PISA調査（読解力）の結果分析と改善の方向—」の中で、次の視点を示した。

- ア テキストを理解・評価しながら読む力を高めること
- イ テキストに基づいて自分の考えを書く力を高めること
- ウ さまざまな文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会を充実すること

文部科学省の提案は、「読むこと」と他領域の「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の活動の関連を通して読解リテラシーを身に付けさせようとするものである。特に、アでは「建設的な批判を伴う読み」の導入が目標にある。「建設的な批判を伴う読み」（クリティカルリーディング）が重視されるのは、物事を自分で考え判断する主体的な読みを目指しているためであると考えられる。井関義久氏は著書『分析批評』の中で、「批評は外言的な活動（話すこと、書くこと）でなければならない。」と述べ、どのような表現の効果があるかを問うような、生徒が主体となり、考えを表出する読みを提案している。読解リテラシーの育成のためには、単に文章を読むだけではなく、最終的には表現する活動を位置づける必要があると考える。

(4) 「読むこと」の「言語活動例」が求めているもの

新学習指導要領では、言語活動例が内容の項目に組み込まれた。西辻正副氏は、「読むことの学習は、読む活動だけでは不十分であり、それだけでは、読む能力も十分に身に付かない。話したり、聞いたり、話し合ったり、書いたりする言語活動を通してこそ、より効果的に内容を読み取り、読みを深め、指導事項に示された読むことについての能力を身に付けていくことができる」と述べている。このことは、知識を一方向的に教えるのではなく、生徒にもっと主体的に考えさせようとする授業展開が求められていると解釈できる。しかし、活発に言語活動に取り組んでいるように見えて、どのような力が身に付いたのか分からないという状況は避けなくてはならない。現行と改訂の言語活動例を比較し、どのような能力を身に付けさせることが求められているのか考えてみたい。

【国語総合「読むこと」の言語活動例 学習指導要領の現行と改訂の比較】

現 行	改 訂
(ア) 文章に表れたものの見方や考え 方などを読み取り,それらについ て話し合うこと。	(ア) 文章を読んで <u>脚本にしたり</u> ,古典を現代 の物語に <u>書き換えたり</u> すること。
(イ) 考えを広げるため,様々な古典や 現代の文章を読み比べること。	(イ) <u>文字,音声,画像などのメディアによって</u> <u>表現された情報</u> を,課題に応じて読み取 り, <u>取捨選択してまとめる</u> こと。
(ウ) 課題に応じて必要な情報を読み 取り,まとめて発表すること。	(ウ) 現代の社会生活で必要とされている <u>実</u> <u>用的な文章</u> を読んで内容を理解し, <u>自分</u> <u>の考えを持って話し合う</u> こと。
	(エ) 様々な文章を読み比べ,内容や表現の仕 方について, <u>感想を述べたり批評する文</u> <u>章を書いたり</u> すること。

以上の比較から、次のような能力を身に付けることが求められているのではないかと考えた。

- ・脚本にしたり、書き換えたりすることで、読んだことを再構成する力
- ・文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報や、実用的な文章など多様なテキストを読み取って、自分の考えを持って話し合う、取捨選択してまとめるなど、自分で表現する力
- ・様々な文章を読み比べ、分析し批評する力

つまり「読むこと」の言語活動例は、考えることを中核としながら、読んだことについて、書く・話し合う活動を関連させて「読む能力」を高めようとしている。そして言語活動例は、OECDの「読解リテラシー」の読みのプロセスである「情報の取り出し」、「解釈」、「熟考・評価」を具現化した手立てになっており、読解リテラシーの育成を目指していることが明らかである。

#### (5) 本研究で検証する言語活動

本研究では、読解リテラシー育成のために「読むこと」と「書くこと」を関連させた言語活動を行う。その際、生徒が主体的に文章にかかわろうとする姿勢を大事にした、次のような活動を目指す。

- ・ テキストを目的に応じて読み、読み取ったことを生かす活動
- ・ テキストの表現の効果について批評する活動

また、どのような読みの力を身につけようとしているのかを生徒に意識させるため、

- ・ 「読解リテラシー」における「情報の取り出し」「解釈」「熟考・評価」という3つを読みのプロセスを指導過程に位置づける。

## 2 生徒の実態把握と考察

### (1) 意識調査の概要

調査のねらい 生徒の「読むこと」に関する意識や実態を把握し、課題を明らかにする。

調査方法 調査用紙による選択・記述法

調査対象 研究実践校の1年生普通科41名

### (2) 意識調査の結果と考察

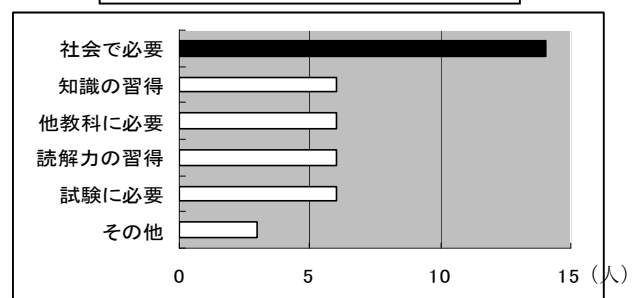
#### ① 【読むことの必要性】

読むことが大事であると思う理由について聞いた結果が下の表である。

「社会で生きていく上で必要である」という理由が最も多く、「試験や他教科に必要な力である」と考える生徒を上回る。

「読むこと」が学校の教育活動の中だけの狭いとらえ方ではなく、将来に渡って必要な力であるとらえていることが分かった。

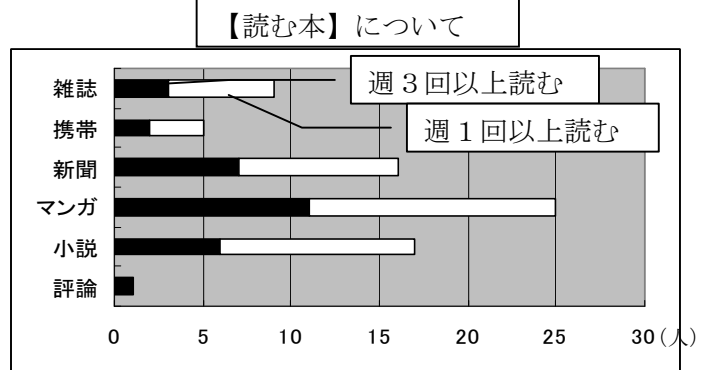
【読むことの必要性】について



② 【読む本】について

生徒が「授業以外で読んでいる本」についての結果が下の表である。

週一回以上読むジャンルは、漫画が25人と最も多い。次に小説、新聞と続くが、評論は1人のみで、授業以外では読まない本であることが分かった。新たなものの見方、考え方、論理的な表現の仕方のためにも評論は大事である。



論理的な文章を書くことによって、評論を読むことの必要性を感じるような授業展開が必要である。

③ 【読む力】について

「授業の中で、生徒が身に付けたい読む力」についての結果が下の表である。

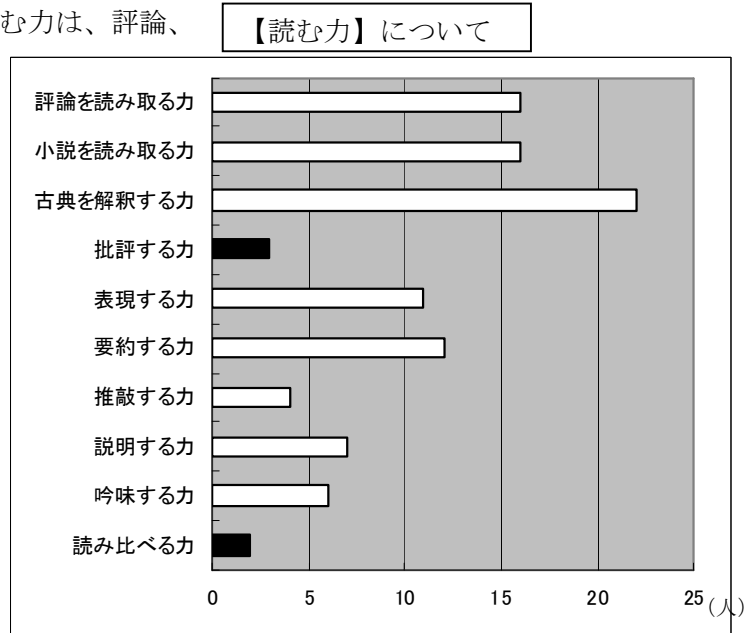
生徒が身に付けたいと考える読む力は、評論、

小説、古典を読み取る力である。生徒は、読む力を「何が書かれてあるか理解する力」としてとらえていることが分かる。

読んだことを利用して、書いたり話したりする力について、生徒の意識は低い。特に、生徒が身に付けたい力として意識していない読む力は、批評する、読み比べる力である。

テキストの内容や構造について、自分で考えて判断するな

ど読みの力は、読解リテラシーにおける「熟考・評価」の部分である。解釈する力に加えて、「建設的な批判を伴う読み」等を授業に積極的に取り入れていく必要がある。



④ 【読みの方略】について

授業で文章を読むとき、どのようなことを意識しながら読むかという読みの方略について聞いた結果が次の表である。

それぞれの項目を「読解リテラシー」の3つの読みのプロセスと関連づけて整理してみた。半数近くの生徒が、文章を読むときに意識していないことは●の項目である。

評価しながら読む、テキストを利用して自分の考えを表現するなど、読んだことを生かそうとする意識が低いことを示している。

読みのプロセス	読みの方略	意識する生徒
情報の 取り出し	大事だと思う文に線を引いている。	88%
	指示語（これ、あれ、このように）の指し示す内容を考えている。	93%
	キーワード・キーセンテンスを探しながら読んでいる。	79%
解釈	文章のつながり（接続詞）に気をつけて読んでいる。	85%
	作品の主張、主題は何かを考えている。	83%
	何について書いてあったか要点をまとめている。	81%
	事実と筆者の意見を区別して読んでいる。	85%
	題名の意味を考えるようにしている。	76%
	今読んでいる部分と全体がどう関係するのかを考えるようにしている。	81%
	意味段落に分け、それぞれの段落の関係を考えるようにしている。	66%
熟考 評価	●筆者の論の進め方はわかりやすいかを考えるようにしている。	56%
	●筆者の主張は正しいかを考えるようにしている。	71%
	●小説の情景描写の効果について考えるようにしている。	56%
	●文章の内容や表現の仕方について評価するようにしている。	49%
	●読んで出会った新しい知識がどこで生かせるかを考えるようにしている。	52%
	●筆者があげた具体例とは別に自分の具体例を作ってみる。	39%

(3) 「読むこと」の実態調査から見えてきた課題

- ・ 評論は授業以外では読むことが少ない文章である。
- ・ 「読解リテラシー」が目指す、「熟考・評価」すなわち文章の述べられ方、表現の仕方などについて判断する読みに対する意識が低い。
- ・ テキストを利用して自分の考えを表現する（出会った知識を生かす、具体例を作るなど）意識が低い。

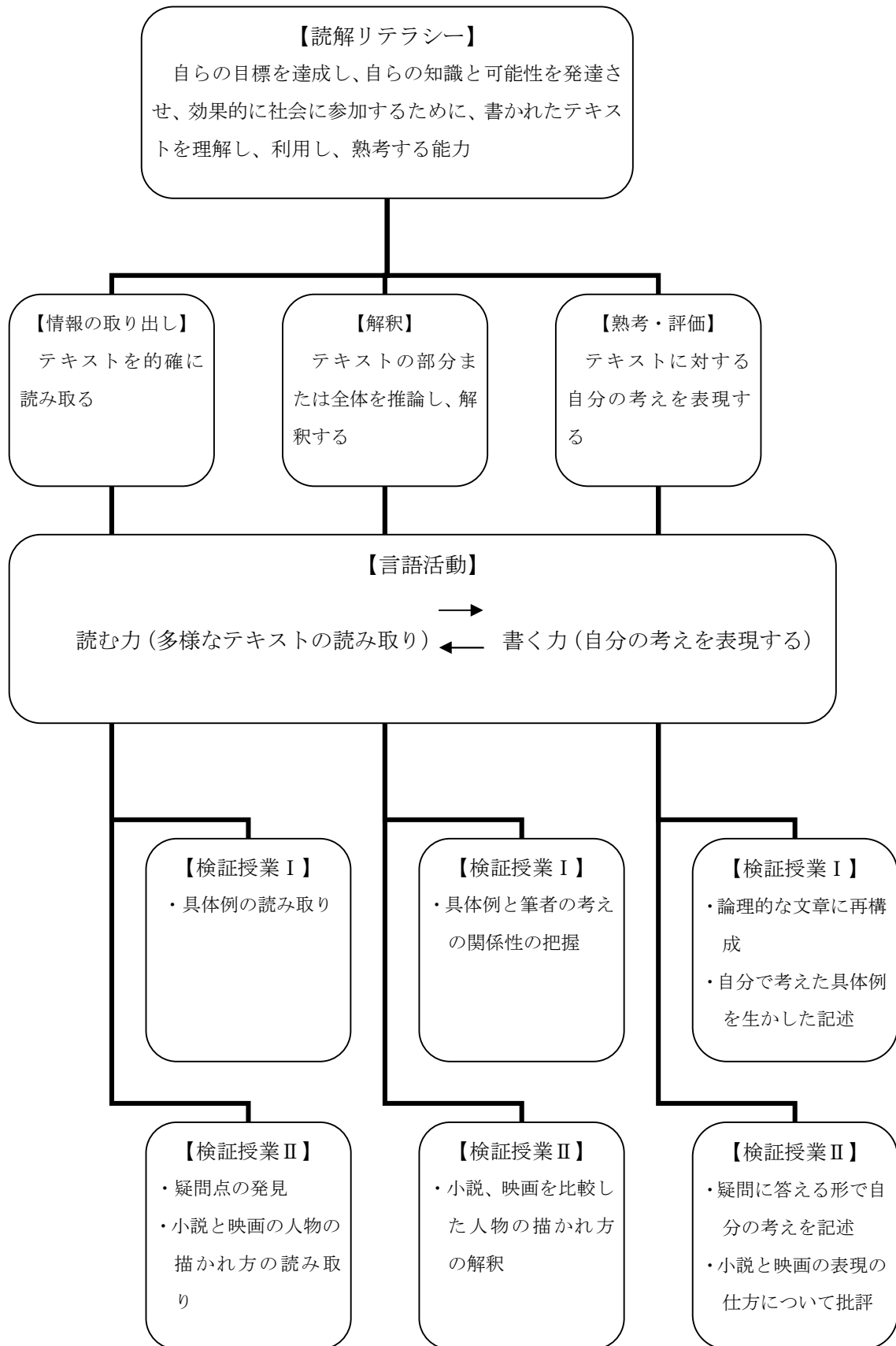
(4) 実態調査をもとにした研究の方向

実態調査から明らかになった課題を踏まえ、次のような検証授業Ⅰ、Ⅱを行う。

	検証授業Ⅰ	検証授業Ⅱ
実態調査から 見えた課題	○論理的な文章を読まない。 ○テキストを利用して自分の考えを表現していない。	○文章の論の進め方が正しいか考えたり、表現効果について考えたりする読みがされていない。
検証授業の 方向性	○対話形式の文章を論理的な構成にする、リライトの活動を取り入れる。 ○テキストを利用して、効果的な具体例を考え表現する場を設定する。	○映像と小説を比較し、それぞれの表現の良さを批評することを通して、作品の価値を見だし、作品の評価を行う。



検証授業Ⅰ、Ⅱにおける「読むこと」と「書くこと」の関連、読解リテラシーのつながりに  
 ついては次のようになる。



### 3 検証授業 I (リライト)

#### (1) 単元名・単元の目標

- ① 単元名 「言葉の意味は誰が決める」 永井 均 4時間
- ② 単元の目標 (ア) 文章を読んで、構成を確かめたり表現の特色をとらえたりする。  
(イ) 対話形式の文章を論理的な文章に書き換えることで、論理的な構成を理解するとともに読みを深める。

#### (2) 学習指導上の工夫

	研究の視点	言語活動の工夫	「読解リテラシー」 読みのプロセス
指導の流れ			
第1時	対話形式の文章の内容をとらえ、具体例と筆者の考えとの関係を把握する。		情報の取り出し 解釈
第2～3時	論理的な構成にリライトすることで、論理的な構成を理解する。	①リライト ②効果的な具体例	熟考・評価
第4時	リライトした内容を相互評価し、論理的な文章について吟味する。	③相互評価	熟考・評価

学習指導上の工夫①～③の具体的な内容は、次の通りである。

#### ① リライトする

リライトとは「すでに存在する文章を、ある目的などに従って、書き改めること」である。例としては要約やあらすじを書く、物語の続きを書く、小説を脚本に書き改めるなどがある。リライトの効果として1つは、再構成するために、もとの文章を的確に読む力が身に付く、2つは、再構成によって、効果的な論の展開の仕方や表現の仕方に気づくなどがある。リライトという活動を指導過程に位置づけることで、再構成するという目的に向かって読むことができ、読んだことを自分の表現に生かす力を高めることができると考える。

まず、第1時で、対話形式で進む文章の具体例2つを抜き出して、内容を理解し(情報の取り出し)、「問い」、「答え」、「具体例」という視点から整理し、関係性を考える(解釈)。第2、3時で、論理的な文章にリライトさせる(熟考・評価)。リライトによって、論理的な構成を理解させるとともに、本文を叙述に即して的確に読み取らせたい。

#### ② 効果的な具体例を用いて表現する

私たちは日常会話において、多くの具体例を用いて相手が分かりやすくなるように説明をしている。本教材もまた具体例が主張を支えている文章である。今回のリライトでは、本文で用いられる具体例とは別の具体例を自分で考えさせる。自分で考えた具体例を、説得力が増すように用いることで自分の知識を効果的に生かす(熟考・評価)。

#### ③ 相互評価する

自分の書いた文章を他と交流させることで、どの文章が説得力のあるリライトであるかを吟味する(熟考・評価)。その際、生徒同士が評価しやすいように、同じ立場で書いた生徒のグループになるように配慮する。評価項目は4つ(立場は明確か・問題に対する答えがあるか・具体例に説得力があるか・全体を通して納得できるか)である。また、評価する視点を

増やすために、アドバイスを自由記述で書く欄を設ける。

(3) 検証授業 I の展開

第 1 時

	指導内容	学習活動・言語活動	評価の観点と方法
導 入	○読むしくみについて説明し、目的を持って意識的に読むように伝える。	○推測、内的辞書について知る。 自分の知識と関連づけながら読むことが「分かる」につながると理解。	【関心・意欲・態度】
展 開	○対話形式の文章を、叙述に即して読み取り、具体例と筆者の考えの関係についてとらえさせる。	○教師の音読を聞きながら、本文の具体例に線を引く。 ○具体例を抜き出す。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気が置けない</li> <li>・情けは人のためならず</li> </ul> </div> ○本文を読み、具体例を用いて筆者が伝えたかったことをまとめる。 〈生徒の記述例〉	【読む能力】 観察（本文の具体例に線を引きながら聞いているか） ワークシートの記述（具体例と筆者の意見の関係性を整理しているか）
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気が置けない…意味の由来や根拠も知らないで間違っ て使うのは、たとえ多数派であっても間違い。</li> <li>・情けは人のためならず…同情して助けることは人のためにならないという意味で使われることが多かった。必要性から意味が変わることもある。</li> </ul> </div>	
ま と め	○論理的な構成、文章について説明する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">           論理的な構成（問題、答え、具体例）            論理的な文章（誰が読んでも主張したいことが伝わる文章。）         </div>	○論理的な構成について理解し、対話形式で進む本文を、「問い」、「答え」、「具体例」に整理する。	【言語事項】 論理的な文章の組み立てについての理解。

第 2 ・ 3 時

	指導内容	学習活動・言語活動	評価の観点と方法
導 入	○文章をリライトする活動の意義と方法について確認する。	○対話形式の文章を、論理的な構成の文章にリライトすることで、読みを深めることを確認する。 ○リライトは、もとの文章の内容を利用しながら、自分の考えを書く活動であることを確認する。	

展開	<p>○「気が置けない」、「情けは人のためならず」のどちらの立場からリライトするのかを明確にさせる。</p> <p>○その他に間違っ使われる日本語を探し、リライトの文章に生かすようにする。</p>	<p>○もう一度本文を読み、内容を把握した上で、述べる立場を決める。</p> <p>○問題、答え、具体例の3つが必ず入るように文章を書く(※)。</p> <p>○間違っ使われる日本語を探し、文章に生かす。</p> <p>〈間違っ使われる日本語の例〉</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">       檄を飛ばす・慥然・さわり・琴線にふれる・ぞっとしない・姑息な・役不足・ピンからキリまで     </div>	<p>【読む能力】</p> <p>【書く能力】</p> <p>観察(問題、答え、具体例の関係を理解しながら説得力のある文章を書いているか。)</p>
----	--	---	--

(※) つまづいた生徒への手だて〜リライトしよう。(参考資料) ~

論理的な構成とは・・・問題提起、答え、具体例や理由・根拠
論理的な文章とは・・・誰が読んでも、主張したいことが伝わる文章
<b>例1 「気が置けない」</b>
【問題】 言葉の意味は私たちが決めているのに、多数派が間違いになるのはどういうときか。
【答え】 それは言葉の意味の理由や根拠をきちんと理解している人がいるときだ。
【具体例】 例えば、「気が置けない」は、気を遣わないという意味が正しいし、「檄を飛ばす」も励ます意味ではなく周囲に自分の意見を伝えるという意味が正しい。
【答え】 本当の言葉の意味を知る権威者は過去とつながっているから、理由や根拠を理解していない人は多数派であっても間違っしていることになる

第4時

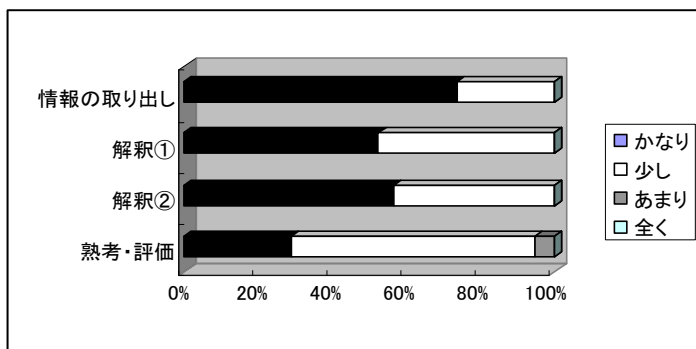
	指導内容	学習活動・言語活動	評価の観点と方法
展開	<p>○論理的な文章にリライトできたかどうかをグループで相互評価させる。評価の観点に従って記入し、アドバイスがあれば自由に記述させる。</p> <p>○班の中で最も論理的な文章にリライトできたものを発表する。発表者1名、説明者(リライトが選ばれた理由を述べる者)1名を選出するよう説明する。</p>	<p>○4人グループになってお互いの文章を読み合い、評価を記入する。</p> <p>〈相互評価の内容〉</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">       ①立場は明確か        ②問題に対する答えがあるか        ③具体例に説得力があるか        ④全体を通して納得できるか     </div> <p>○評価が高かったリライトを発表し、優れていると考えた根拠を述べる。</p>	<p>【読む能力】</p> <p>自己評価 相互評価</p> <p>【話す・聞く能力】</p>

ワークシート（本文を読んで、具体例と作者の主張の関係性を考え、リライトにつなげる。）

<p>④</p> <p>(1) 論理的な構成とは？三つの要素を入れる。 問題提起：どうやって、なぜ、どっちが、だが、いつ 答え 答えを支える理由・根拠や具体例</p> <p>(2) 論理的な文章とは？</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>論理的な構成の理解</p> </div>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">II</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">I</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体例</li> <li>・具体例に関する内容を説明しよう</li> </ul> <p>・筆者が伝えたいこと</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体例</li> <li>・具体例に関する内容を説明しよう</li> </ul> <p>・筆者が伝えたいこと</p> </td> </tr> </table> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>具体例と主張関係性の把握</p> </div>	II	I	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体例</li> <li>・具体例に関する内容を説明しよう</li> </ul> <p>・筆者が伝えたいこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体例</li> <li>・具体例に関する内容を説明しよう</li> </ul> <p>・筆者が伝えたいこと</p>	<p>★ アクション（読む） 一年（ ）組（ ）番 氏名</p> <p>① 書かれ方の工夫、その効果に気づく。 全体として何が書いてあったか推定する。</p> <p>☆ シンキング（部分から全体へ。具体から抽象へ） ③ 具体例を読み解こう。 筆者が具体例を使って、伝えたいことは何か？ キーワードを□で囲もう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>目的に応じて読む。</p> </div>
II	I					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体例</li> <li>・具体例に関する内容を説明しよう</li> </ul> <p>・筆者が伝えたいこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体例</li> <li>・具体例に関する内容を説明しよう</li> </ul> <p>・筆者が伝えたいこと</p>					

(4) 検証授業 I の成果と課題

(ア) 事後のアンケートより



- 情報の取り出し…2つの具体例の内容が分かった
- 解釈①…筆者の言いたいことと具体例の関係性が分かった
- 解釈②…リライトするために考えながら読むことができた
- 熟考・評価…論理的な構成にリライトすることができた

【成果】 「情報の取り出し」は、約80%の生徒ができたと評価している。また、リライトのために本文をしっかり読んだ、筆者の主張と具体例との関係性が分かったなどの「解釈」の項目において、約60%の生徒ができたと評価し、リライトという活動が、考えたり理解しながら読むことを促したと思われる。

【課題】 「熟考・評価」に課題が残った。論理的な構成を理解させるためのリライトであったが、生徒の反応としては、かなり分かったという生徒は約30%にとどまり、多くの生徒は何となく分かったというレベルである。また、リライトを難しいと思った生徒が大半であった。理由としては、難解な文章を小学生でも分かる文章にリライトするのではなく、比較的分かりやすい文章を、論理的な構成という難しいレベルにリライトさせた点にある。1年生の1学期の段階では、論理的な文章への習熟が十分ではなく、易しい文章→論理的な文章へのリライトは高度であった。検証授業IIでは、全員が読んだことを生かして書くことができる工夫をしたい。



#### 4 検証授業Ⅱ（批評読み）

##### （1） 単元名・単元の目標

① 単元名 「夢十夜 第六夜」 夏目 漱石 3時間

② 単元の目標（ア）文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。

（イ）文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報と文章とを比較することで、表現の仕方について批評する。

##### （2） 学習指導上の工夫

指導の流れ	研究の視点	言語活動の工夫	「読解リテラシー」 読みのプロセス
第1時	・小説を読み、疑問点をあげる。 ・小説の人物の描かれ方を理解する。	①人物の描かれ方の 比較	情報の取り出し 解釈
第2時	・映画を見て、人物の描かれ方を理解し、小説の描かれ方と比較する。	②多様なテキストの 読み取り	情報の取り出し 解釈
第3時	・小説と映画の表現の仕方について比較し、それぞれの良さを批評することで主体的な読みを目指す。 ・疑問点に対する答えを書くことで読みを深める。	③批評する	熟考・評価

学習指導上の工夫①～③の具体的な内容は、次の通りである。

##### ① 人物の描かれ方の比較

まず、運慶が仁王を彫る様子を、明治時代の人物が眺めているという夢の設定をしっかりと読み取り、疑問点をあげる（情報の取り出し）。次に、人物の描かれ方を読み取る（情報の取り出し）。最後に明治の人物と、鎌倉時代の人物（運慶）の描かれ方を比較することで、「なぜ鎌倉時代の運慶が明治時代にまで生きているのか」を考える（解釈）。明治時代の見物人は、仁王を一つのすばらしい芸術作品としては認めてはいるものの、それを彫る運慶のすばらしさや精神性には着目していない。また、視点人物の「自分」が、簡単に仁王は彫れるのだと思うところから、運慶の境地には達しえない、明治の人々や時代が描かれているというところができる。

##### ② 多様なテキストの読み取り（小説と映画との結末を比較する）

映画は、今風の言葉を用いたり、運慶が自分の世界に入って彫刻をする様子をダンスで示したりするので、生徒は映像世界に入り込みやすいと思われる。まず、映画での人物の描かれ方について読み取る（情報の取り出し）。次に、「運慶が今日まで生きている理由」について、小説と映画の結末の描かれ方の違いに着目して考える（解釈）。小説では運慶の真似をして木を掘っても何も出てこないのだが、映画では東北の土産物としてよく見られる「クマ」の置物が出てくる。結果、人のサイズにあったものしか埋まっていないと解釈している点を、小説の解釈の手がかりにしたい。

##### ③ 批評する

小説とその小説を題材とした映画を比較することで、表現の仕方によって生み出される

効果について書く。また、第1時であげた疑問点についての答えを自分の言葉で書く（熟考・評価）。

(3) 検証授業Ⅱの展開

第1時

	指導内容	学習活動・言語活動	評価の観点と方法
導入	<p>○夏目漱石の『夢十夜』について説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏目漱石は明治時代の作家である。</li> <li>・芥川龍之介との関係。</li> <li>・漱石の作品の中で『夢十夜』は異色な作品である。</li> </ul>	<p>○夏目漱石について知り、「夢」について考える。</p>	【関心・意欲・態度】
展開	<p>○本文を音読する。 「夢らしい設定を探しながら聞いてください」</p> <p>○疑問点に線を引かせる。</p>	<p>○教師の音読を聞きながら、明らかに夢だという設定をとらえる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">鎌倉時代の運慶の彫刻の様子を明治時代の人間が見ている設定。</div> <p>○疑問点を挙げる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">最後の運慶が今日（明治時代）まで生きている理由。</div>	<p>【読む能力】</p> <p>観察（夢らしい設定を探しながら聞いているか）</p> <p>観察（疑問点に線を引いているか）</p>
	<p>○文章に描かれた人物を挙げさせ、それぞれの行動について考えさせる。</p>	<p>○登場人物を挙げる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">運慶、自分、若い男、車夫、無教育な男</div> <p>○本文を読み、それぞれの人物の行動をまとめる。（生徒の記述例）</p>	ワークシートの記述
	<p>○「運慶はどのような彫刻家として描かれているか。」について考えさせる。</p>	<p>○運慶の行動をもとに考える。</p> <p>〈生徒の意見の例〉</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">思い切りがいい彫刻家。無我夢中に彫刻ができる。天下の英雄である。</div>	
まとめ	○運慶と、明治の人間の描かれ方を比較させる。	○本文をもう一度読みながら、明治の木には仁王は埋まっていないということについて考えを深める。	【関心・意欲・態度】

疑問点については、言葉の意味に関するもの以外をあげるように指導する。疑問点の中には、「彫刻を作るのではない、掘り出すまでだ」という表現の仕方に着目した生徒もいた。

運慶…見物人の評判には頓着しない。一生懸命に掘っている。  
自分…若い男に言われて、仁王を掘ってみるが何も出てこない。  
若い男…運慶の彫刻について、作るのではなく掘り出すだけだと言う。  
車夫…運慶の彫刻の姿を見ながら下馬評をしている。  
無教育な男…仁王について語る。



第2時

	指導内容	学習活動・言語活動	評価の観点と方法
導入	○映画を鑑賞するに当たって、人物の描かれ方の違いに注目するように説明する。	○前時のワークシートを見ながら、小説の人物の描かれ方を復習する。	【関心・意欲・態度】
展開		○映画を鑑賞する。	【読む能力】 課題に応じて読み取る。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>特に注目するのは結末の描かれ方。小説では自分が彫刻しても何も出てこなかったが、映画ではクマの置物が出てくる。その時の自分の解釈「人のサイズにあったものしか出てこない」について、どういうことなのかを考える。 〈生徒の意見より〉人のサイズにあったもの…器、人間性、彫刻の才能</p> </div>		
まとめ	○映画と小説を比較しながら、明治の木と表現されている小説の意図を考えさせる。	○もう一度小説に立ち返り、どうして明治の木には仁王が埋まっていないのかを考える。	【読む能力】

第3時

	指導内容	学習活動・言語活動	評価の観点と方法
導入	○小説の登場人物をもう一度確認させ、生徒自身はどのタイプに近いかを考えさせる。	○自分はどのタイプかを判断することで、登場人物の行動をもう一度押さえる。	【関心・意欲・態度】
展開	○運慶が今日まで生きている理由について考える。	○下のような問いに答える形で書く。 「あなたならどう答えるか」という設定にすることによって、自分の問題としてとらえ、主体的に考える。	【読む能力】
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○次のような質問が来ました。あなたならどう答えますか？</p> <p>【質問】 夏目漱石の夢十夜を読んでいるのですが、第六夜で、なぜ運慶が明治時代まで生きているのがよくわかりません。教えてください。</p> </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>つまりいた生徒への手立て ・仁王は、「明治の木」には埋まっていないとあるが、なぜ「明治」なのか。「平成」の木には仁王は埋まっているのかについて考えさせる。</p> </div>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○小説「夢十夜」、映画「ユメ十夜」、それぞれの魅力を書いてください。</p> </div>		
まとめ	○生徒が書いたものを発表させる。	○生徒の発表を聞き、自分の考えと比較する。	【話す・聞く能力】

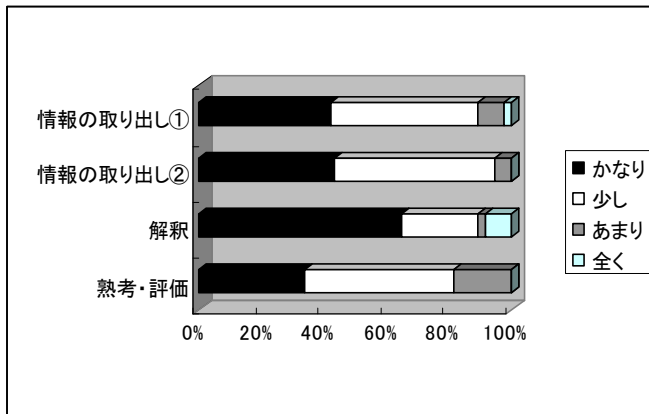
ワークシート（小説と映画での人物の描かれ方を比較する。）

運慶が 今日まで生きている理由	見物人の描かれ方	比較	彫刻をする 運慶の描かれ方	成立の 時代 背景	成立	
「明治の木」と「仁王」が意味するものは？	<p>☆「若い男」が話題にしているもの</p> <p>☆「車夫」が話題にしているもの</p>	<p>☆「自分」の取った行動と結果</p> <p>運慶の真似をして薪を掘るが、何も出てこない。</p>	<p>☆ 運慶はどんな彫刻家として描かれているか？</p> <p>☆ 彫刻をする運慶について書かれている部分に線を引こう。</p>	明治時代の特徴	1908年（明治四十一年）	『夢十夜』 夏目 漱石
		比較		二年前の特徴は？（はやっていたもの）	2007年（平成十九年）	『ユメ十夜』 松尾 スズキ

『夢十夜』 第六夜 夏目 漱石 1年（ ）組（ ）番 氏名（ ）

(4) 検証授業Ⅱの成果と課題

(ア) 事後アンケートより



情報の取り出し①…小説の人物の描かれ方が分かった。  
 情報の取り出し②…映画の人物の描かれ方が分かった。  
 解釈…映画と小説を比較することで読みが深まった。  
 熟考・評価…自分の考えを表現できた。

【成果】 「解釈」について、映画と小説を比較することで読みが深まったとする生徒が60%以上おり、比較することで読みの「解釈」が広がったと言える。授業をする前は、小説より映画の方に興味を持つだろうと考えていたが、「夢十夜」第六夜以外の作品も読んでみたいかという質問に対しては70%以上の生徒が、かなり読みたいと答えており、小説に魅力を感じていることが分かった。

【課題】 「情報の取り出し」について、かなり分かったという生徒が40%に止まった。小説や映画の人物の描かれ方については、ワークシートにまとめることが中心であったため、板書するなどして全体で確認する必要があった。自分の考えをあまり表現でき

なかった生徒が20%おり、「情報の取り出し」がきちんとできていないと、「熟考・評価」の段階に結びつかないという課題が残った。登場人物の中で、自分はどのタイプに近いかという質問に対して、生徒の話し合いはかなり盛り上がった。このような生徒との対話をきっかけに、さらに小説に立ち返って人物像に迫る必要がある。

(イ) 生徒の書いた文章から

次のような質問が来ました。あなたならどう答えますか？

【質問】夏目漱石の夢十夜を読んでいるのですが、第六夜で、なぜ運慶が明治時代まで生きているのがよくわかりません。教えてください。

質問形式で問うことで、自分のこととして主体的に考えさせる。

【答え】

- 明治時代には運慶を超える彫刻家がいなかったため、明治時代の人々に運慶という存在が根付いていたからではないでしょうか。
- 自分が何日もかけて仁王を掘り出そうと探したが全く見つからなかったくらい掘り当てるのが難しいため、運慶が生きているのはその木を探すのがとても難しく時間がかかったから。
- 明治時代にはさまざまな文化が日本に入ってきて、芸術という意味が少しずつ変わってきた。鎌倉時代の運慶は明治とは真逆の大胆さで英雄と呼ばれていた。明治の人にとって運慶はあこがれであり、ここでの「生きている」は「知られている」ではないでしょうか。
- 運慶は魂を込めて仁王を掘っていたことから、仁王の中には運慶の魂があるということだ。ということは仁王＝運慶となり、仁王がある限り運慶が生きていることになる。
- 運慶は簡単にすばらしい彫刻はできなかったと思うけど、かなりの努力があったからこそできたのでそのあきらめず努力する心を忘れないでほしいという願いがあるからだと思います。
- 運慶が鎌倉時代で仁王を掘り出したことは、とても偉大なことであり、並大抵の人には掘り出すことができないものです。そしてその偉大さを真似できるような人は、明治時代になっても現れず人々の心の中にずっと生き続けているからだと思います。

【成果】2名をのぞいて、読んだことを整理して自分の考えを書くことができた。質問形式にしたことにより、自分のこととして主体的に考えたと言える。運慶の存在が意味することについて、明治の人間を引き合いに出しながら考えようとしているのが分かる。また、検証授業Ⅰの時と比べ、自分の意見を進んで述べようとする生徒が増えた。「読むこと」と「書くこと」を関連させ、表現したものを全体で吟味するという授業の流れを作っていくことで、生徒は表現することに慣れていき、積極的に意見を述べようとするようになった。

【課題】書いてある内容を吟味すると、運慶は偉大である、英雄だ、私たちの心に生き続けるなどの言葉で表現してしまい、明治の時代の人々と運慶の違いについての解釈が深まっていないものがあった。

(ウ) 生徒が書いた文章から（小説、映画をそれぞれ批評する。）

○小説「夢十夜」、映画「ユメ十夜」、それぞれの魅力を書いてください。

	小説「夢十夜」	映画「ユメ十夜」
表現の仕方に関する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 謎を作ることで、読者に深く考えさせる事ができる。</li> <li>・ 最後を読者に考えさせるような終わり方にしている。</li> <li>・ 読めば読むほど不思議な感覚にとらわれる。まるで夢の中に入り込んでいくようだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 想像したものと全く違う運慶や彫刻の仕方があって、予想外のことばかりでおもしろかった。最後にクマが出てくるなどの小説にないところも驚いた。</li> <li>・ 「電車男」みたいな言葉遣いを用い、若い人でも見やすく、楽しめるような作りだった。</li> </ul>
人物の描かれ方に関する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運慶の行動が詳しく書かれている。</li> <li>・ 「自分」の人間性が読み進めるごとに分かってくるような感じがした。</li> <li>・ 明治の人と、鎌倉の人が一緒にいても違和感なく、運慶の存在がなじんでいる。</li> <li>・ 映画と比べて1人1人の個性が出ていた。</li> <li>・ 運慶とその他の人の格差がはっきりしていて、運慶の目には見物人など少しも映っておらず、緊張感があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運慶の彫刻する様子を実況するようにセリフが語られていて面白い。</li> <li>・ 見物人の表情が豊かだった。</li> <li>・ ダンスや1人1人の動きを印象的にするなど、今風の言葉を取り入れながらも小説の柱は守っている。</li> <li>・ 運慶や自分の描かれ方が面白く、違いがよく分かった。</li> </ul>

**【成果】** 比較してみることで、映画とは違う、小説の謎を残す終わり方や人物や情景の描かれ方に良さを感じていることが分かる。また、鎌倉時代の運慶を明治の人々が見ているという小説の設定が、無理なく生き生きと描写されていることに気づいている。映画の良さについても、単なる面白い、すごいなどの感想ではなく、今風の言葉・文化を取り入れている点や、小説との描かれ方の違いについて書くことができている。

**【課題】** 今回行った読むことの指導は、映画と小説を比較し、それぞれの良さを評価するという、批評の入り口の段階に止まった。小説が書かれた時代背景や、漱石の意図については追求せず、作品中の人物の描かれ方を中心に扱った。しかし、「建設的な批判を伴う批評」の実現のためには、小説の書かれた社会的・文化的な背景、作者である夏目漱石の考えなどについても理解させ、漱石の明治の精神に対する批判が、どのように描かれているかという視点で作品世界に切り込んでいく必要がある。

### Ⅲ 研究のまとめ

#### 1 研究の成果

- ① 「読解リテラシー」の読みのプロセスを指導過程に位置づけ、「読むこと」と「書くこと」を関連させた活動をしたことで、書くために何度もテキストを読むなど、主体的な読みにつながった。
- ② 「リライト」は、読み取った内容を押さえつつ、自分の考えを表現させることができる言語活動であり、読解リテラシーの育成には有効な指導方法であることが分かった。
- ③ テキストを利用して、具体例を考えて書く、質問に答える形で書くなどの言語活動を通して、読んだことを生かしながら表現することができた。
- ④ 「批評読み」では、映像と小説の描かれ方を比較したことで、表現の効果について批評する視点を持つことができた。「どのように描かれているか」という視点で映画と小説の違いを読み解くことは、小説の読みを深める上で有効であった。
- ⑤ 映画を教材として用いることで、小説独自の魅力を再確認することができ、また他の部分を読みたいという読書の意欲を喚起することができた。

#### 2 研究の課題

- ① 読解リテラシーの育成のために、図や表などの非連続型テキストや実用的な文章を、教科書教材の補助資料や、発展的な資料として効果的に用い、自分の考えを表現させていく必要がある。
- ② 自分が表現したものを相互評価したり自己評価することで、より良い表現に高まっていくような交流の場の工夫を行う必要がある。
- ③ 読解リテラシーの育成は、教育活動全体で行うべきものであるため、各教科で行うべき言語活動を整理する。国語科において、どのような言語活動が有効であるかを、さらに検証する必要がある。

#### 参考文献

- 「読む心・書く心」 秋田喜代美 北大路書房  
「指導と評価」 Vol.54 55 56  
「中等教育資料」2009.8  
「認識力を育てる『書き換え』学習」 中学校・高校編 府川源一郎・高木まさき 東洋館出版社  
「読む力の基礎・基本—17の視点による授業づくり—」 井上 一郎 明治図書  
「高等学校学習指導要領 国語」 東洋館出版社  
「中学校『読解力』を鍛える説明文指導の新展開」 河野庸介 編者 明治図書  
「学び方を学ぶ『分析批評』」 井関義久 明治図書